



私の思い出写真館

日韓の未来をつむぐ 若者たち



高祖 敏明

学校法人上智学院
理事長

去る6月3日夜、私は韓国ソウルの西江(Sogang)大学にいた。「韓日文化フォーラム」の設立式典に、発起人の一人として参列するためである。創立者はシン・ヘギョン同大学教授。玄界灘に橋を架け、長年にわたって両国の文化交流と相互理解の促進に献身されてきた功労者である。

私が初めて韓国の土を踏んだのは、もう40年も前の1970年夏。ちょうど日本赤軍による「よど号ハイジャック」事件があった直後だ。日本ユネスコ協会連盟が企画した第5回ユネスコ学生訪韓団(12名)の一員に選ばれ、釜山―慶州―大田―ソウルと回って同世代の韓国の大学生たちと交流する、9日間のセミナーに参加した。



1970年8月16日、南山頂上にて韓国の学生たちと。筆者は左端



日韓ユネスコ学生トレーニング・セミナーの結びに、韓国の学生からプレゼントを受け取る筆者。1970年8月20日、ソウル(クリスチャン・アカデミー・ホテル)にて。

当時の日韓関係と国民感情は、まさに「近くて遠い国」であった。ソウルへ移動するために特急列車に乗り込んだときの、乗客から感じた突き刺すような視線。日本がスパイの中継地になっている事例を指摘しながら、「だから日本は嫌い」と面と向かって言い放つ男子学生。個人的には親近感をにじませるのに、討論になると「遠い国の人」のように思えた。もっとも、思いは彼らも同様で、彼らから見ると日本は「近くて遠い国」だったのだ。

時は流れて、いまや国レベルでは日中韓の「キャンパス・アジア構想」が進行中である。民間レベルでも、例えば、上智大学は西江大学との間で、毎年100人を超える学生たちの文化・スポーツ交流(SOFEX)を展開している。未来の主人公たちへの期待は大きい。

このたび設立された「韓日文化フォーラム」の活動内容は、学术交流と並んで、両国の食品や料理、服飾などの生活文化面や、音楽芸能面での相互交流も掲げられている。「韓流」「日流」を結び、いよいよ根を張るような交流を図っているわけである。発起人には、ソウル女子大学のイ・グァンジャ総長と、昭和女子大学の坂東眞理子学長も加わっておられる。